

新聞・朝刊太郎

2010.8
広告号
埼玉
SOHO

「朝刊太郎」ってなあに

さあ、「朝刊太郎」を利用して、皆さんで新聞を作ってみましょう。

「朝刊太郎」は、いまから10年以上前に、当時、長野県立岡谷工業高校に勤務していた先生が開発、無料で公開している、新聞製作に特化したフリーソフトです。

ネット上で「朝刊太郎」と検索すれば、簡単にダウンロードすることが出来ます。また、動作環境の設定は、実行ファイルの中に保存し、PCのレジストリをいじらないため、必要なくなった時は、フォルダごと削除(アンインストール)するだけで完了です。この点でも、安心

して試用できます。

紙面の設定

最初に紙面の大きさを決めます。朝刊太郎は、通常の一般新聞の大きさからハガキの大きさまで指定ができます。

目的にあつた大きさ、例えば、サークルの会報や自治会新聞、学級通信などは、プリンターとの関係からB4判かA4判、田舎のお爺ちゃん、お婆ちゃんに送るハガキ通信など目的とレイアウトを考えてみましょう。

それでは、「紙面設定(S)」↓「紙面設定(全て)」をクリックします。

下の画面から、用紙サイズ、

自由研究に新聞作りを

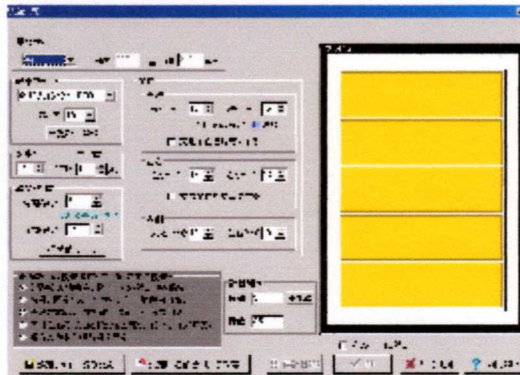
楽しい夏休みがやってくる。君は夏休みは何をするのかな。

お祖父さんやお祖母さんに会いに田舎に行く、家族で海水浴に行く、それともリッチに海外

旅行…。そんな楽しい夏休みの思い出を、自由研究として新聞にまとめてみませんか。

朝刊太郎を使ってパソコンでの新聞作りを勉強します。これに君は名編集長!

記事フロント、1行の文字数、段数など基本の紙面設定をします。全ての設定が決まったらデフォルトに設定にチェックを入れ、OKをクリックします。次回からは立ち上げた時、同じ設定で紙面が表示されます。



レイアウト

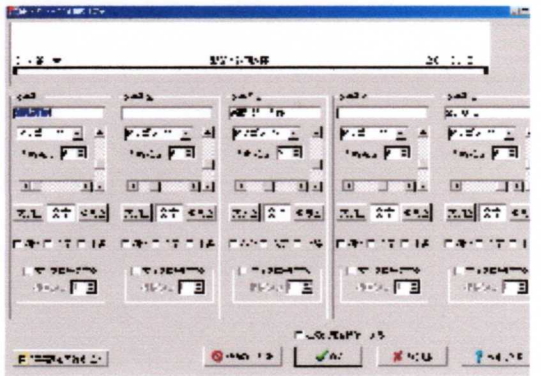
紙面の基本設定が決まったら、紙面のレイアウトです。

まずは題号(新聞の名称)と題字(号数など基本情報)を決めましょう。題号も題字も途中で変更しないのが、一般的な決まりです。慎重に決めましょう。

次に、欄外にヘッダ(発行日、名前、ページ数などを表示)を作成します。「紙面設定(S)」↓「ヘッダの編集」をクリックします。基本は左にページ、号

数、中央に題号、右に発行日時などです。

記事の形態には、タタミ記事、カコミ記事、ナガシ記事があります。タタミ記事とは、複数段に折って、左又は右の外枠に押し付けるやり方です。カコミ記事とは、記事に罫を巻き付けて、他の記事とハッキリ区別する方法です。ナガシ記事は、タタミ記事やカコミ記事の間を縫うよう



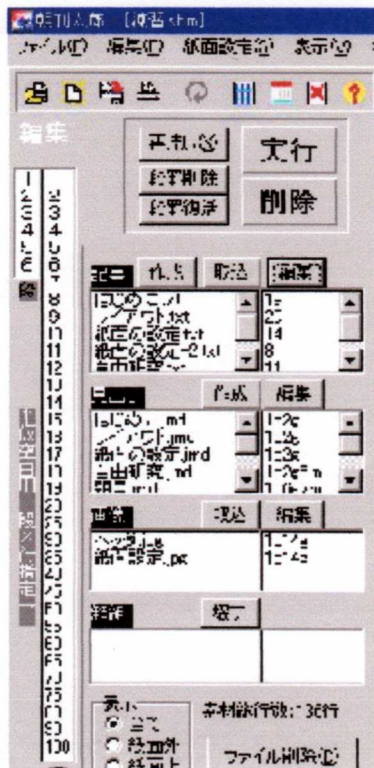
うに流れる記事で、これによって、新聞紙面らしくなります。このほか紙面には、長文の記事の全体を、端的に短く要約したリード(前文)や見出し、写真が並んで紙面となります。

編集操作

「朝刊太郎」の編集機能は、ほとんどの操作が、マウスのクリック、ダブルクリック、ドラッグで可能です。

記事や見出しの作成、画像の編集、エトキ文(写真説明)などは、全て編集操作パネル(左の写真)で行います。

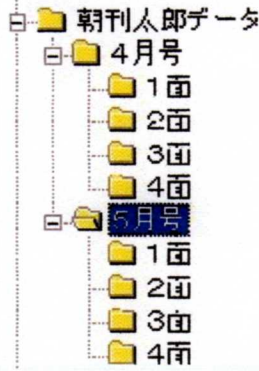
記事を流すには、事前に作成され、編集操作パネルに表示されている項目をクリックして選択、次に記事を流したい位置をクリック、「実行」ボタンを押します。逆に、紙面に展開している記事を外すときは、記事の上でクリックしてから「削除」ボタンを押します。



使い方の基本の基本

はじめに、保存の方法を確認しましょう。

このソフトは、いろいろなファイルを組み合わせて紙面を作る、という性格上、「1つのフォルダ11つの紙面」という発想で作られています。つまり、紙面に使う材料(テキストや画像ファイル)と、紙面ファイルがすべて一つのフォルダに収められなくてはなりません。左図のように、フォルダを作っておくと管理しやすいでしょう。

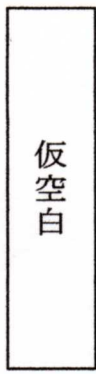


なお、紙面保存後、エクスペローラなどで、フォルダを移動したり、名前を変えるなど整理しても問題はありません。

罫線と仮空白

紙面のレイアウトでは、見出しを置く位置や写真を置く位置を仮空白で計算したり、記事の仕切りに罫線を描きます。

仮空白は、編集操作パネルの仮空白用段行指定を利用します。また、紙面上でシフトキーを押しながら、マウスの左ボタンを押して、ドラッグすれば左のように仮空白が作れます。



罫線は、コントリールキーを押したまま、マウスの左ボタン

5W1Hが記事の基本

記事を書く基本は、「5W1H」の考え方です。

「5W1H」とは、①いつ(日時・When)②どこで(場所・Where)③だれが(主人公・Who)④なにを(行動・What)⑤なぜ/どうして(目的・at)

原因・Why)⑥どのようにした(状態・How)です。この五つの要素をハッキリと書きましょう。また、胴長(句読点のない)の文章は読みにくく、内容も短わりにくいものです。文章は短

を押して、そのままドラッグします。マウスのボタンを離すと、左のように、罫線が引かれます。

その時、罫線は、紙面上で一番近い素材(記事や見出しなど)にくっつきます。ドラッグで必要な場所に移動します。また、右クリックで編集メニューが表示され、罫線の模様や太さなども編集できます。

流し記事

普通に記事を配置することを「流す」といいます。右下の「囲み記事風」と異なり、段罫がありません。また、見出しや写真などに当たると、記事がそれとまらで流れることは原則としてできません。

ちなみに一般新聞の記事の流れは、「上から下へ、右から左へ」ですが、下の段に移動するときは「左から右」へと流れるく、やさしく、ハッキリと、心がけましょう。

次に、日時や場所、名前(固有名詞)は、必ず再確認をすることです。これは、校閲をする際の心構えでもあります。その他、起こったこと(事実)と自分の意見(考え)はしっかりと区別して書くことにも注意しましょう。

通常、「箱」とか「窓」と呼ばれる「囲み記事」は、紙面の中で特別に罫で囲まれ、フォントが異なったり、見出しや写真が記事の中に配置されるなど、目立った記事です。時

囲み記事風

には横組みもあります。残念ながら、このソフトでは、「囲み記事」そのものはできません。が、それに近い編集はできます。それは、見出しや写真

のが原則です。1段目の10行目から2段目の15行目へ流れることはありません。

同様に、1段目からいきなり3段目に段を越して記事が流れる、いわゆる「飛び降りる」ともありません。

しかし、これも「たちきり(タタミ)」や、囲み記事風の部分では許されることがあります。一般新聞の紙面から、それぞれの特徴を掴み、研究してみましよう。

制限事項

このソフトは、新聞製作専用のDTPソフトです。99年9月に公開されて以来、親子で作る家族新聞、サークルや自治会の会報など、多彩な場面で活用されています。

に「またぎ属性」を付けることです。具体的には、一つの区画を決め、中の段罫を抜きます。次に、配置する見出しや写真などを右クリックして「編集メ

ニュー」の中の「属性を変える」↓「またぎにする」をクリックします。これで、記事の中に見出しや写真を置くことができます。

ような「万能」ソフトではありませんが、「新聞のような新聞」を編集するために特化した機能を持っています。

しかし、残念ながら、このソフトではできないこともあります。

基本的には、1度に1ページの編集しかできません。4ページの新聞を作るのは、4個面別々に編集する必要があります。縦書き編集専用なので、横書きの新聞は編集できません。ただ見出し扱いで、部分的に横書きにすることはできます。

扱える画像は、いまのところビットマップ(bpm)とJPEG(jpg)だけです。1段落の全角文字数は4千字(原稿用紙10枚分)です。オーバーした部分はカットされることがあります。